

次の文章は玄田有史『希望のつくり方』の一部です。よく読んで、後の問いに答えなさい。答えは、問二十二以外は黄色の解答用紙に書きなさい。問二十二の答えは **国語一五** の解答らん書きなさい。字数の指定がある問題は、句読点や記号も一字と数えます。

子どもの頃

小学校の卒業文集というものがあります。卒業を記念して、学校での思い出を語ったり、そのとき思っていた夢や目標を作文にしてとりまとめたりするものです。多くの人が書いたことがあるでしょう。¹ 大人になって、そのときに書いた作文などを目にしたりすると、ほぼ一〇〇%赤面します。

将来の夢として、私が書いたのはプロ野球選手。一九七五年(昭和五〇年)、小学校五年生のとき、広島東洋カープが球団**ソウセツ**史上初優勝したときの感激は忘れられません。鳥根県松江市から貸し切りバスに乗って広島市民球場まで、優勝直前のカープを応援に行ったことをおぼえています。

卒業文集に多くの人々が赤面するのは、何も知らない小学生の自分が、² 途方もない夢を語っていることを、今から現実的にふりかえってみて、はずかしくてたまらなくなるからです。もちろん私もプロ野球選手にはなれませんでした。

希望学の調査で、二〇歳から四九歳の方々に、小学校六年生と中学校三年生のときにいっていた職業に関する希望について調査をしました。小学校時代の職業希望をたずねると、七〇・九%が「希望する職業があった」とこたえています。なりたかった仕事の中身をきいてみると、教師、スポーツ選手、電車の運転手、パイロット、小説家、漫画家などが多くなっていました。その他は九・六%が「希望する職業がなかった」とこたえており、残りが「おぼえていない」でした。

では、**1** 小学生のときの希望を実現した人たちは、どれくらいいたのでしょうか。調べた結果、「希望していた仕事に就いたことがある」は、全体の八・二%にしかすぎませんでした。小学生の頃の職業希望を大人になってかなえた人は、ほんのひと握りです。

中学三年生のとき、「希望する職業があった」というのは、六二・一%と、小学生時代よりも減っています。かわりに「希望する職業がなかった」は二六・八%と大きく増えています。

現実が少しわかるようになった中学生は、小学生ほど希望を持てなくなるようです。職業希望の中身も、薬剤師、栄養士、看護師などの医学・薬学系、エンジニアやプログラマーといった工学系など、**(A)** から専門性へと移っていきます。しかし、そんな現実味を**オ**びてきた中学生のときの希望でさえも、大人になってからかなえたという人は少数です。中学三年当時の希望の仕事に就いたことがある人も、一五・一%にしかすぎませんでした(玄田編二〇〇六)。

2 小さな子どもの頃にいだいた希望は、実際にはほとんど実現しません。子どもの頃の希望は、大人になると多くは失望に変わってしまうのです。

修正の旅へ

子どもや若者は本来、素直に希望を語りやすいものです。それが大人になるにつれて、実現可能性についての情報を持つようになります。すると、「希望なんてどうせかなわない」というあきらめも生じやすくなります。また情報が少ない時代には持つことができた無邪気な希望も、高度情報化社会になると、そうもいきません。情報が多いと選択肢が増えて有利になる人もいます。しかし、自分に特別な才能がないと思う人には、希望なんてどうせかなわないと、思い知らされることのほうが、**2** 増えるのです。

情報化が進んだ社会の若者は、かつての若者以上に、希望の実現が困難であることを直観的に知っているように思います。その意味では、**3** 昔の子どもよりも、今の子どものほうが、夢や希望を持ちにくくなっているといえるかもしれません。

子どもの頃の希望にかぎらず、希望の多くは失望に終わります。希望は文字通り、希にしかかなわない望みです。失望や挫折を避けたいならば、希望なんて持たないほうがいいという人もいるでしょう。「希望がない」という人のなかには、希望がかなわないことのショックを避けるために、**3** 希望から距離を置くようにしていることもあるようです。

4 どうせ失望に変わることが多い以上、希望など持たないほうがよいのでしょうか。私はそうは思いません。むしろ希望は、失望に変わったとしても、探し続けることにこそ、本当の意味があるのです。そんな考えを**シ**ジしてくれる結果があります。

日本人のいづく希望の多くは、仕事にかかわっています。日本社会に生きるたくさんの人たちが、やりがいのある仕事に出会うことを望んでいます。実はこの仕事のやりがいと、子どもの頃からの職業希望には、一定の関係があるのです。

先の中学三年生の頃の職業希望について、その後の変遷状況をたずねてみました。**5** 何らかの職業希望を持っていた人のうち、「その後も同じ仕事を希望し続けた」割合は、四二・五%にのぼりました。**6** 「希望する仕事はその後特になくなった」は、二一・〇%です。残りは「(当初)希望する仕事はあったが、その後なくなり、別の仕事に希望は変わった」でした。

それとは別に、これまでやりがいのある仕事を経験したことがあるかをたずねてみました。すると、職業希望が中学三年生のときになかった人よりはあった人のほうが、平均すると、大人になってからのやりがいの経験割合は高くなっていました。さらに職業希望のあった人のなかで、もっともやりがい経験割合が高かったのは、**(B)** だったのです。

希望の多くは簡単に実現しません。大事なものは、失望した後、つらかった経験を踏まえて、次の新しい希望へと、柔軟に修正させていくことです。

民話であれ、文学であれ、登場人物のやることが、すべてうまくい

く、成功ばかりの物語など、ほとんどありません。あったとしても、誰もそんな物語をおもしろいとは思わないでしょう。希望が失望になったとしても、くじけず新たな希望という旅に向かって歩み出す。その波瀾万丈の姿に、心を動かされるのが、物語なのです。

「希望の多くは失望に変わる。しかし希望の修正を重ねることで、やりがいに出会える」。これが、希望の物語性についての第一の発見です。

ある青年の物語

では、希望を修正させていくというのは、具体的にどういうことなのでしょう。ここではかつて埼玉県で多くの人々の就職支援をしてきた小島貴子さんからヒントをいただいた、ひとりの青年の物語を紹介したいと思います。

高校を卒業して以来、ずっと仕事をしてこなかった若者が、あるときたずねてきたそうです。特にやりたいこともみつからないという彼に、まず何か好きなことはあるかをたずねました。「別にない」と、あまり反応も① 《ありません。そこで今度は「じゃあ、好きだったことはある？」と聞いたそうです。

彼には、実はひそかに好きで好きでたまらないものがありました。それは、野球でした。小さい頃から野球選手にあこがれ、いや正確に言えば、プロ野球選手に自分になれることを信じて疑わず、毎日野球に② 《いたのです。

野球への希望に満ちあふれていた彼だからこそ、高校のときに直面せざるを得なかった現実の衝撃は、こたえました。自分の実力では、プロ野球選手になることは不可能だと思い知らされたのです。その瞬間、彼の希望は、失望を大きく超えて、「C」望へと変わりました。目標を失った彼は、だからといって、進学や就職をめざすわけでもありません。卒業してから「注1」フリーターもしくは「注2」ニートのような状態を続けていました。4 希望が、彼を苦しめていたのです。

その話に耳を澄まし、彼の失望に理解を示しながら、小島さんはこんなこともたずねたそうです。「どうして、そんなにまで野球が好きになったの？何かきっかけがあるのかな」。

実は、彼にははつきりとしたきっかけがありました。おそらくはまだ小学校の低学年だったくらいの頃です。テレビ中継などで野球を食い入るようにみていたその少年のために、親御さんが野球のスタジアムに連れていってくれたのです。当日、球場の入り口でチケットを見せた後、彼は一気に階段を駆け上がります。階段の先には、今までみたことのないほど、美しい芝生が広がっていました。そこには、テレビで知っていた有名な選手が打撃や守備の練習をする姿がありました。その光景をみた瞬間、彼は野球の虜になったのです。

そんな彼と小島さんの会話を、すぐ横でパソコンを使って就職活動中の女性が聞く「D」聞いていたのだそうです。「芝生」を耳にして、自分が検索していたなかに、地元でも芝生を生産・販売する会社があったと、彼女は何気なく、おしえてくれました。

そこから5 彼のなかに化学反応が起こり始めます。野球に挫折したショックから、彼はまだ完全には立ち直っていません。しかし彼は、会話のなかで、自分がやっぱり野球が好きで、これからもきっと好きであり続けるだろうということを、正直に認めます。

考えてみれば、好きな野球にかかわる仕事をするという希望をかなえるのは、何もプロ野球選手になることだけではありません。6 自分の原点を振り返り、彼は希望を変えていきます。結局、彼はナマのプロ野球との最初の出会いにあった芝生を植え付ける職人になることへと、新たに希望を修正させていったのです。

挫折の持つ意味

希望の物語性として、修正体験とならんで、希望と密接にかかわっているのが挫折体験です。「計画や事業などが」途中でくじけ折れること。だめになること。③ 《『広辞苑』と定義される挫折の体験です。

アンケート調査では、学校を卒業して最初についた仕事をはじめから、最初の五年以内に、何らかの仕事上の挫折や失敗を経験したことがあるかをたずねました。すると三〇歳以上五九歳以下の回答者のうち、ほぼ半数の四八・四％が挫折を経験したことがあると語りました。

調査では、挫折を経験したという回答者に、それを乗り越えることができたと思うかもたずねました。挫折を乗り越えたという**自負**を持つ人は、八三・二％にのぼりました。八割以上が挫折を乗り越えた体験を持つというのは多いといえますが、二割弱が乗り越えられなかったと答える現実も、重くきびしいものです。

そうなると、就職してからの挫折体験によって、働く人々を三種類にわけられることになります。挫折を経験しなかったおよそ「五割」の人々。挫折を経験して乗り越えられなかったおよそ「二割」の人々。そして挫折を経験して乗り越えてきたおよそ「四割」の人々です④「四割」は、〇・四八四×〇・八三二＝〇・四〇三から計算できます。

この三種類のうち、現在希望を持って仕事をしている割合が圧倒的に高かったのは、挫折を I 経験を持つ人々だったのです。一方、挫折を II 人々と、そもそも挫折を III 人々では、仕事に希望を持つ割合は、ほぼ同じ程度で低い水準にあります。

過去に挫折を経験していない人ほど、希望を持ちにくいという関係は、何も仕事にかぎったことではないようです。計量歴史社会学者の佐藤香さんは、未婚者のうち、失恋という挫折を経験したことのない人ほど、恋愛や結婚に希望を持ってないことを指摘しています。失恋経験の乏しさが、二〇代男性の恋愛や結婚をあきらめる風潮を7 助長しているのです（佐藤二〇〇六）。

希望学で行った複数のアンケートやインタビュー調査に共通して、挫折を経験し、なんとかくぐり抜けてきた人ほど希望を持っているようだという傾向は、たびたび表れました。ただ、挫折とは何かというのは、むずかしい問題です。8 過去の挫折経験を語る人ほど、

未来のなかの希望を語ることができるようだ、というのがより適切な表現のようです。

挫折を語ることと、過去の失敗の経験とは、似ているようでちがいます。過去の失敗は事実ですが、挫折を語れるということは、過去の失敗を自分のものとしてとらえなおし、現在の自分の言葉で表現できることを意味しています。同じように希望を語れることも、未来の成功とはちがいます。希望は、未来の成功に向かっていくことを指し示す、現在の自分の言葉なのです。

挫折と希望は、過去と未来という時間軸上は、正反対に位置するものです。しかしそれらはともに、現在と言葉を通じてつながっています。それが「過去の挫折の意味を自分の言葉で語れる人ほど、未来の希望を語ることができる」という、希望の物語性についての第二の発見なのです。

(中略)

経験は「注4」伝播する

挫折を経験している真つ最中は、本当に苦しいものです。しかしその経験から何かを学び、次につなげるきっかけを得ることが、希望につながるべく。考えてみると、挫折が希望をつくるという物語は、私たちの日常に、めずらしいことではありません。

以前、福島県の水産食品の仕入れや卸売りを営む会社を訪問したときに聞いた話です。その会社の社長さんは、社員の日ごろの働きぶりを見ているうちに、高校を卒業したばかりの二人の女性社員に目がとまりました。そこで二人を社長室に呼び、ア話をしたそうです。「君たちは、なかなかいい。相談だが、君たちが希望するのであれば、それぞれ商品の担当責任者になって仕事をしてもらいたい」と思っているのだが、どうだろう。社長の話にとまどいながらも、二人は目と目をあわせ、ドキドキしながら「やつてみたい」といったそうです。

そこから二人にとってのシレンの始まりでした。「とにかく現場でおぼえろ」ということで、毎朝早くから市場に通うことになりました。忙しさもあり、市場では、誰かが仕事のやり方を(E)取り(F)取りおしえてくれるわけではありません。むしろ流れの邪魔になるというので、怒られたりするばかりの毎日です。やつのこと仕入れをして、レストランやホテルに卸しても、卸先から納得の評価を得られることもありません。

やりたいと威勢よく社長にいつてはみたものの、そんな苦難や挫折の連続の毎日に、二人はすっかり疲れてしまいました。

問一 本文中の太字のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 1 大人になって、そのときに書いた作文などを目にしたりすると、ほぼ一〇〇%赤面します とありますが、なぜ赤面するのですか。

- その理由として次のア～エの中からもっともよくあてはまるものを選び、記号で答えなさい。
- ア 子どものころに様々な職業にあこがれた純粋な気持ちを思うと、夢を失った今の自分がはかしくなるから。
 - イ かつてプロ野球選手になったところ、広島カープが優勝した感激を思い出すと今でも胸が熱くなるから。
 - ウ 実際にはほとんど実現しない夢をもっていたことを大人になった後に冷静にふり返り、照れくさく思うから。
 - エ 子どものころにはなりたい職業があったのに、夢をかなえるために努力しなかった自分を腹立たしく思うから。

ある日の午後、会社にある飲み物の自動販売機の前で休憩していた二人は、ためいき交じりに相談していました。「もうできない。やつぱり私たちには無理でしたって謝って、やめさせてもらおうよ」。そのとき、たまたまだったのですが、同じ狭い休憩室の向こう側で、コーヒーを飲んでいた四〇歳代の男性先輩社員がいました。その先輩も、二人が仕事に苦戦していることは傍からみて知っていました。でも、9 特に励ましたり、アドバイスをするといったようなことは、あえてしませんでした。それが、いよいよよくじて折れそうだという様子を見て、ひとことだけ、声をかけました。

「いいんだ、いいんだ。今のうちにちゃんと失敗しておけば大丈夫だから。だいたいみんな10 最初はそうだったんだから。あんまり気にすんな」。

ときに人は「ハマる」という感覚を持つことがあります。その言葉は、挫折し、そうだった二人にまさにピッタリとハマりました。よくわからないのですが、気分がラクになり、もう少し続けてみようという気になりました。そのうち仕事もみえてくるようになり、さすが社長が見込んだだけあって、スーっと社会人として工伸びていきました。

先輩社員の言葉は、別に取り立ててスゴイ言葉ではないかもしれませんが。しかし、これは私の想像にすぎないのですが、その男性も自分がかつて苦しかったときに、同じような言葉を先輩からいわれたのではないか。それは、自分の過去の経験に基づいた言葉です。自身の経験が裏づけとなって、どこかしら、共感を呼ぶ言葉です。だからこそ、何気ない言葉でも、いや何気ない言葉だからこそ、自分の日常を見つめなおし、明日に希望をつなぐきっかけを与えてくれるのです。

この話がおしえてくれるのは、11 挫折が希望に変わる瞬間には、しばしば人から人へ経験の伝播があるということです。

(玄田有史『希望のつくり方』)

【注】

- 1 フリーター 〓「フリー・アルバイター」の略で、ひとつに決えずに自由に様々な仕事をして生活している人。
- 2 ニート 〓学校にも通わず、働きもせず、職業訓練も受けないで家にいる若者。
- 3 『広辞苑』 〓国語辞典の名前。
- 4 伝播 〓伝わり広がっていくこと。



問三 1 3 にあてはまることを次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし記号は一度しか使えません。

ア さすがに イ はたして ウ よもや エ しきりに オ あえて カ むしろ

問四 (A) にもっともよくあてはまることを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひらめき イ やりがい ウ いきごみ エ あこがれ

問五 2 小さな子どもの頃にいただいた希望は、実際にはほとんど実現しません。とありますが、どのようなことからそう言えるのですか。次のア～エの中からあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小学校時代の職業希望をたずねると、九・六％が「希望する職業がなかった」とこたえていること。
イ 中学生になると希望を持てなくなり、希望する職業がある人も七〇・九％から六二・一％に減ったこと。
ウ アンケートの結果で希望していた仕事に就いたことがある人が、全体の八・二％しかいなかったこと。
エ 中学三年当時の希望の仕事に就いたことがある人は、一五・一％にすぎなかったということ。

問六 3 昔の子どもよりも、今の子どものほうが、夢や希望を持ちにくくなっているといえるかもしれません。とありますが、なぜですか。その理由としてもっともよくあてはまるものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 昔の子どもの方が自然の中で遊び、情報の少ない世界に暮らしていて、素直に希望を語り純粋に将来を考えていたから。
イ 今の子どもは大人から希望のほとんどはかなわず失望に終わったという話を聞かされ、あきらめやすくなっているから。
ウ 情報化が進んだ社会では、様々なデータが簡単に手に入り、自分の希望が実現するかについて興味を失ってしまうから。
エ 現代は情報量が多く、目指すものと自分の力との差が分かってしまい夢がかなうかどうかの推測がつきやすくなるから。

問七 4 6 にあてはまることを次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし記号は一度しか使えません。

ア 同様に イ つまり ウ そこで エ しかし オ 反対に カ すると

問八 (A) B () にもっともよくあてはまる表現を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 当初の希望が別の希望へと変わっていった人たち イ 当初の希望を失ってから望む職業がなかった人たち
ウ 当初からの希望を失っても悩まなかった人たち エ 当初から強い希望を持ち努力し続けていた人たち

問九 (A) ① (B) ② (C) ③ (D) ④ (E) ⑤ (F) ⑥ (G) ⑦ (H) ⑧ (I) ⑨ (J) ⑩ (K) ⑪ (L) ⑫ (M) ⑬ (N) ⑭ (O) ⑮ (P) ⑯ (Q) ⑲ (R) ⑳ (S) ㉑ (T) ㉒ (U) ㉓ (V) ㉔ (W) ㉕ (X) ㉖ (Y) ㉗ (Z) ㉘ (AA) ㉙ (AB) ㉚ (AC) ㉛ (AD) ㉜ (AE) ㉝ (AF) ㉞ (AG) ㉟ (AH) ㊱ (AI) ㊲ (AJ) ㊳ (AK) ㊴ (AL) ㊵ (AM) ㊶ (AN) ㊷ (AO) ㊸ (AP) ㊹ (AQ) ㊺ (AR) ㊻ (AS) ㊼ (AT) ㊽ (AU) ㊾ (AV) ㊿ (AW) ㋀ (AX) ㋁ (AY) ㋂ (AZ) ㋃ (BA) ㋄ (BB) ㋅ (BC) ㋆ (BD) ㋇ (BE) ㋈ (BF) ㋉ (BG) ㋊ (BH) ㋋ (BI) ㋌ (BJ) ㋍ (BK) ㋎ (BL) ㋏ (BM) ㋐ (BN) ㋑ (BO) ㋒ (BP) ㋓ (BQ) ㋔ (BR) ㋕ (BS) ㋖ (BT) ㋗ (BU) ㋘ (BV) ㋙ (BW) ㋚ (BX) ㋛ (BY) ㋜ (BZ) ㋝ (CA) ㋞ (CB) ㋟ (CC) ㋠ (CD) ㋡ (CE) ㋢ (CF) ㋣ (CG) ㋤ (CH) ㋥ (CI) ㋦ (CJ) ㋧ (CK) ㋨ (CL) ㋩ (CM) ㋪ (CN) ㋫ (CO) ㋬ (CP) ㋭ (CQ) ㋮ (CR) ㋯ (CS) ㋰ (CT) ㋱ (CU) ㋲ (CV) ㋳ (CW) ㋴ (CX) ㋵ (CY) ㋶ (CZ) ㋷ (DA) ㋸ (DB) ㋹ (DC) ㋺ (DD) ㋻ (DE) ㋼ (DF) ㋽ (DG) ㋾ (DH) ㋿ (DI) ㊀ (DJ) ㊁ (DK) ㊂ (DL) ㊃ (DM) ㊄ (DN) ㊅ (DO) ㊆ (DP) ㊇ (DQ) ㊈ (DR) ㊉ (DS) ㊊ (DT) ㊋ (DU) ㊌ (DV) ㊍ (DW) ㊎ (DX) ㊏ (DY) ㊐ (DZ) ㊑ (EA) ㊒ (EB) ㊓ (EC) ㊔ (ED) ㊕ (EE) ㊖ (EF) ㊗ (EG) ㊘ (EH) ㊙ (EI) ㊚ (EJ) ㊛ (EK) ㊜ (EL) ㊝ (EM) ㊞ (EN) ㊟ (EO) ㊠ (EP) ㊡ (EQ) ㊢ (ER) ㊣ (ES) ㊤ (ET) ㊥ (EU) ㊦ (EV) ㊧ (EW) ㊨ (EX) ㊩ (EY) ㊪ (EZ) ㊫ (FA) ㊬ (FB) ㊭ (FC) ㊮ (FD) ㊯ (FE) ㊰ (FF) ㊱ (FG) ㊲ (FH) ㊳ (FI) ㊴ (FJ) ㊵ (FK) ㊶ (FL) ㊷ (FM) ㊸ (FN) ㊹ (FO) ㊺ (FP) ㊻ (FQ) ㊼ (FR) ㊽ (FS) ㊾ (FT) ㊿ (FU) ㋀ (FX) ㋁ (FY) ㋂ (FZ) ㋃ (GA) ㋄ (GB) ㋅ (GC) ㋆ (GD) ㋇ (GE) ㋈ (GF) ㋉ (GG) ㋊ (GH) ㋋ (GI) ㋌ (GJ) ㋍ (GK) ㋎ (GL) ㋏ (GM) ㋐ (GN) ㋑ (GO) ㋒ (GP) ㋓ (GQ) ㋔ (GR) ㋕ (GS) ㋖ (GT) ㋗ (GU) ㋘ (GV) ㋙ (GW) ㋚ (GX) ㋛ (GY) ㋜ (GZ) ㋝ (HA) ㋞ (HB) ㋟ (HC) ㋠ (HD) ㋡ (HE) ㋢ (HF) ㋣ (HG) ㋤ (HH) ㋥ (HI) ㋦ (HJ) ㋧ (HK) ㋨ (HL) ㋩ (HM) ㋪ (HN) ㋫ (HO) ㋬ (HP) ㋭ (HQ) ㋮ (HR) ㋯ (HS) ㋰ (HT) ㋱ (HU) ㋲ (HV) ㋳ (HW) ㋴ (HX) ㋵ (HY) ㋶ (HZ) ㋷ (IA) ㋸ (IB) ㋹ (IC) ㋺ (ID) ㋻ (IE) ㋼ (IF) ㋽ (IG) ㋾ (IH) ㋿ (II) ㊀ (IJ) ㊁ (IK) ㊂ (IL) ㊃ (IM) ㊄ (IN) ㊅ (IO) ㊆ (IP) ㊇ (IQ) ㊈ (IR) ㊉ (IS) ㊊ (IT) ㊋ (IU) ㊌ (IV) ㊍ (IW) ㊎ (IX) ㊏ (IY) ㊐ (IZ) ㊑ (JA) ㊒ (JB) ㊓ (JC) ㊔ (JD) ㊕ (JE) ㊖ (JF) ㊗ (JG) ㊘ (JH) ㊙ (JI) ㊚ (JJ) ㊛ (JK) ㊜ (JL) ㊝ (JM) ㊞ (JN) ㊟ (JO) ㊠ (JP) ㊡ (JQ) ㊢ (JR) ㊣ (JS) ㊤ (JT) ㊥ (JU) ㊦ (JV) ㊧ (JW) ㊨ (JX) ㊩ (JY) ㊪ (JZ) ㊫ (KA) ㊬ (KB) ㊭ (KC) ㊮ (KD) ㊯ (KE) ㊰ (KF) ㊱ (KG) ㊲ (KH) ㊳ (KI) ㊴ (KJ) ㊵ (KK) ㊶ (KL) ㊷ (KM) ㊸ (KN) ㊹ (KO) ㊺ (KP) ㊻ (KQ) ㊼ (KR) ㊽ (KS) ㊾ (KT) ㊿ (KU) ㋀ (KV) ㋁ (KY) ㋂ (KZ) ㋃ (LA) ㋄ (LB) ㋅ (LC) ㋆ (LD) ㋇ (LE) ㋈ (LF) ㋉ (LG) ㋊ (LH) ㋋ (LI) ㋌ (LJ) ㋍ (LK) ㋎ (LL) ㋏ (LM) ㋐ (LN) ㋑ (LO) ㋒ (LP) ㋓ (LQ) ㋔ (LR) ㋕ (LS) ㋖ (LT) ㋗ (LU) ㋘ (LV) ㋙ (LW) ㋚ (LX) ㋛ (LY) ㋜ (LZ) ㋝ (MA) ㋞ (MB) ㋟ (MC) ㋠ (MD) ㋡ (ME) ㋢ (MF) ㋣ (MG) ㋤ (MH) ㋥ (MI) ㋦ (MJ) ㋧ (MK) ㋨ (ML) ㋩ (MM) ㋪ (MN) ㋫ (MO) ㋬ (MP) ㋭ (MQ) ㋮ (MR) ㋯ (MS) ㋰ (MT) ㋱ (MU) ㋲ (MV) ㋳ (MW) ㋴ (MX) ㋵ (MY) ㋶ (MZ) ㋷ (NA) ㋸ (NB) ㋹ (NC) ㋺ (ND) ㋻ (NE) ㋼ (NF) ㋽ (NG) ㋾ (NH) ㋿ (NI) ㊀ (NJ) ㊁ (NK) ㊂ (NL) ㊃ (NM) ㊄ (NO) ㊅ (NP) ㊆ (NQ) ㊇ (NR) ㊈ (NS) ㊉ (NT) ㊊ (NU) ㊋ (NV) ㊌ (NW) ㊍ (NX) ㊎ (NY) ㊏ (NZ) ㊑ (OA) ㊒ (OB) ㊓ (OC) ㊔ (OD) ㊕ (OE) ㊖ (OF) ㊗ (OG) ㊘ (OH) ㊙ (OI) ㊚ (OJ) ㊛ (OK) ㊜ (OL) ㊝ (OM) ㊞ (ON) ㊟ (OO) ㊠ (OP) ㊡ (OQ) ㊢ (OR) ㊣ (OS) ㊤ (OT) ㊥ (OU) ㊦ (OV) ㊧ (OW) ㊨ (OX) ㊩ (OY) ㊪ (OZ) ㊫ (PA) ㊬ (PB) ㊭ (PC) ㊮ (PD) ㊯ (PE) ㊰ (PF) ㊱ (PG) ㊲ (PH) ㊳ (PI) ㊴ (PJ) ㊵ (PK) ㊶ (PL) ㊷ (PM) ㊸ (PN) ㊹ (PO) ㊺ (PP) ㊻ (PQ) ㊼ (PR) ㊽ (PS) ㊾ (PT) ㊿ (PU) ㋀ (PV) ㋁ (PY) ㋂ (PZ) ㋃ (QA) ㋄ (QB) ㋅ (QC) ㋆ (QD) ㋇ (QE) ㋈ (QF) ㋉ (QG) ㋊ (QH) ㋋ (QI) ㋌ (QJ) ㋍ (QK) ㋎ (QL) ㋏ (QM) ㋐ (QN) ㋑ (QO) ㋒ (QP) ㋓ (QQ) ㋔ (QR) ㋕ (QS) ㋖ (QT) ㋗ (QU) ㋘ (QV) ㋙ (QW) ㋚ (QX) ㋛ (QY) ㋜ (QZ) ㋝ (RA) ㋞ (RB) ㋟ (RC) ㋠ (RD) ㋡ (RE) ㋢ (RF) ㋣ (RG) ㋤ (RH) ㋥ (RI) ㋦ (RJ) ㋧ (RK) ㋨ (RL) ㋩ (RM) ㋪ (RN) ㋫ (RO) ㋬ (RP) ㋭ (RQ) ㋮ (RR) ㋯ (RS) ㋰ (RT) ㋱ (RU) ㋲ (RV) ㋳ (RW) ㋴ (RX) ㋵ (RY) ㋶ (RZ) ㋷ (SA) ㋸ (SB) ㋹ (SC) ㋺ (SD) ㋻ (SE) ㋼ (SF) ㋽ (SG) ㋾ (SH) ㋿ (SI) ㊀ (SJ) ㊁ (SK) ㊂ (SL) ㊃ (SM) ㊄ (SN) ㊅ (SO) ㊆ (SP) ㊇ (SQ) ㊈ (SR) ㊉ (SS) ㊊ (ST) ㊋ (SU) ㊌ (SV) ㊍ (SW) ㊎ (SX) ㊏ (SY) ㊐ (SZ) ㊑ (TA) ㊒ (TB) ㊓ (TC) ㊔ (TD) ㊕ (TE) ㊖ (TF) ㊗ (TG) ㊘ (TH) ㊙ (TI) ㊚ (TJ) ㊛ (TK) ㊜ (TL) ㊝ (TM) ㊞ (TN) ㊟ (TO) ㊠ (TP) ㊡ (TQ) ㊢ (TR) ㊣ (TS) ㊤ (TT) ㊥ (TU) ㊦ (TV) ㊧ (TW) ㊨ (TX) ㊩ (TY) ㊪ (TZ) ㊫ (UA) ㊬ (UB) ㊭ (UC) ㊮ (UD) ㊯ (UE) ㊰ (UF) ㊱ (UG) ㊲ (UH) ㊳ (UI) ㊴ (UJ) ㊵ (UK) ㊶ (UL) ㊷ (UM) ㊸ (UN) ㊹ (UO) ㊺ (UP) ㊻ (UQ) ㊼ (UR) ㊽ (US) ㊾ (UT) ㊿ (UU) ㋀ (UV) ㋁ (UY) ㋂ (UZ) ㋃ (VA) ㋄ (VB) ㋅ (VC) ㋆ (VD) ㋇ (VE) ㋈ (VF) ㋉ (VG) ㋊ (VH) ㋋ (VI) ㋌ (VJ) ㋍ (VK) ㋎ (VL) ㋏ (VM) ㋐ (VN) ㋑ (VO) ㋒ (VP) ㋓ (VQ) ㋔ (VR) ㋕ (VS) ㋖ (VT) ㋗ (VU) ㋘ (VV) ㋙ (VW) ㋚ (VX) ㋛ (VY) ㋜ (VZ) ㋝ (WA) ㋞ (WB) ㋟ (WC) ㋠ (WD) ㋡ (WE) ㋢ (WF) ㋣ (WG) ㋤ (WH) ㋥ (WI) ㋦ (WJ) ㋧ (WK) ㋨ (WL) ㋩ (WM) ㋪ (WN) ㋫ (WO) ㋬ (WP) ㋭ (WQ) ㋮ (WR) ㋯ (WS) ㋰ (WT) ㋱ (WU) ㋲ (WV) ㋳ (WW) ㋴ (WX) ㋵ (WY) ㋶ (WZ) ㋷ (XA) ㋸ (XB) ㋹ (XC) ㋺ (XD) ㋻ (XE) ㋼ (XF) ㋽ (XG) ㋾ (XH) ㋿ (XI) ㊀ (XJ) ㊁ (XK) ㊂ (XL) ㊃ (XM) ㊄ (XN) ㊅ (XO) ㊆ (XP) ㊇ (XQ) ㊈ (XR) ㊉ (XS) ㊊ (XT) ㊋ (XU) ㊌ (XV) ㊍ (XW) ㊎ (XX) ㊏ (XY) ㊐ (XZ) ㊑ (YA) ㊒ (YB) ㊓ (YC) ㊔ (YD) ㊕ (YE) ㊖ (YF) ㊗ (YG) ㊘ (YH) ㊙ (YI) ㊚ (YJ) ㊛ (YK) ㊜ (YL) ㊝ (YM) ㊞ (YN) ㊟ (YO) ㊠ (YP) ㊡ (YQ) ㊢ (YR) ㊣ (YS) ㊤ (YT) ㊥ (YU) ㊦ (YV) ㊧ (YW) ㊨ (YX) ㊩ (YY) ㊪ (YZ) ㊫ (ZA) ㊬ (ZB) ㊭ (ZC) ㊮ (ZD) ㊯ (ZE) ㊰ (ZF) ㊱ (ZG) ㊲ (ZH) ㊳ (ZI) ㊴ (ZJ) ㊵ (ZK) ㊶ (ZL) ㊷ (ZM) ㊸ (ZN) ㊹ (ZO) ㊺ (ZP) ㊻ (ZQ) ㊼ (ZR) ㊽ (ZS) ㊾ (ZT) ㊿ (ZZ)

問十 (C) 望 にあてはまる漢字一字を考えて書きなさい。

問十一 4 希望が、彼を苦しめていたのです。とありますが、どういうことですか。具体的に説明しなさい。

問十二 聞く (D) 聞いていた。とありますが、「聞くつもりはなく何となく聞いていた」という意味になるように、() にあてはまることを四字のひらがなで考えて書きなさい。

問十三 5 彼のなかに化学反応が起こり始めます。とありますが、「化学反応」によって何が得られたのですか。もっともよくあてはまるものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 今までにない新しい視点 イ 自分の将来を真剣に考える能力
ウ 支えてくれた人への感謝 エ 夢を持ち続けてきたという自信

問十四 6 自分の原点 にもつともよくあてはまるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア やっぱり自分は野球が好きだし、これから好きであり続けるだろうという確信。

イ みたことがないほど美しい球場の芝生の上で、有名な野球選手が練習していた光景。

ウ 野球をあきらめてから進学や就職をしなかったが、思いきって就職支援を頼った勇氣。

エ 小さいころから野球選手にあこがれていた自分を、周囲の人々が応援してくれた経験。

問十五 I III に当てはまる五十字の表現を本文中から探し、それぞれぬき出して答えなさい。

問十六 7 助長している とありますが、ここでの意味としてもつともよくあてはまるものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 原因としている イ 強めている ウ 圧倒している エ 作り上げている

問十七 8 過去の挫折経験を語れる人ほど、未来のなかの希望を語ることができるようだ とありますが、なぜですか。その理由としてもつともよくあてはまるものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 挫折の体験にきたえられて、今後どんなことが起きても大丈夫だと自信がつくから。

イ 表現力がある人ほど、自分の失敗を振り返ってそれを前向きに語ることができるから。

ウ 挫折をくりぬけたことによって、過去の失敗をくり返さないかしこさが身につくから。

エ 言葉で説明するうちに自分の失敗を受け止めることができ、次にどうすべきか分かるから。

問十八 本文中のア～エの ぞう について、働きの異なるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 話をしたぞう イ いったぞう ウ 挫折しぞう エ 伸びていったぞう

問十九 「E」取り「F」取りの「E」「F」に入る漢字一字をそれぞれ書きなさい。

問二十 9 特に励ましたり、アドバイスをするといったようなことは、あえてしませんでした とありますが、「特に」がかかっている部分を、次のア～キの中から一つ選び記号で答えなさい。

特に ア 励ましたり、 イ アドバイスを ウ すると エ いったような オ ことは、 カ あえて キ しませんでした

問二十一 10 最初はそうだった とありますが、どういうことですか。解答らんに合うように十五字程度で答えなさい。

問二十二 11 挫折が希望に変わる瞬間には、しばしば人から人へ経験の伝播がある とありますが、このようなあなたの経験を思い出して具体的に書きなさい。ない場合は、見聞きしたことや想像したことでもよいです。



ソウセツ

オ

シジ

自負

営

シレン

問一

びて

む

問二

問三

1

2

3

問四

問五

問六

問七

4

5

6

問八

問九

①

②

問十

問十一

問十二

聞く

聞いていた

問十三

問十四

問十五

Ⅱ

I

Ⅲ

問十六

問十七

問十八

問十九

E

F

問二十

問二十一

問二十二

答えは 国語Ⅰ五 の解答らんに書きなさい。

ということ

